（別添２－２）

令和７年度 長崎県立希望が丘高等特別支援学校 学校関係者評価報告

１ 評価の実施期日・場所等
○ 令和８年２月９日(月) 本校 会議室

２ 学校関係者評価委員
○ 委員氏名 池田 英俊 様（欠席：ご意見及びご助言については、後日連絡をいただいた。）
山脇 清治 様 門屋 瑞穂 様 原田 敏春 様 山口 梨奈 様（育成会副会長）
○ 学校評議員との兼務の有無 有

３ 学校関係者評価の結果と改善点
（１）自己評価の結果について
○ 学校評価に関する資料については、要点が的確に整理され、大変見やすくまとめられているため、学校評価が適切に行われていることがよく分かるとの意見があった。また、資料中のグラフは年度ごとの変化が捉えやすく、改善の方向性や成果が視覚的に理解しやすい点が評価された。さらに、各項目に対する考察も簡潔に整理されており、今後の教育活動の充実に向けた具体的な取組につなげやすい内容となっている点も高く評価された。
○ 校外喫茶や和太鼓部などの取組が地域に元気を与えており、日頃から学校と地域がしっかり交流できている点は大変良いとの意見があった。また、「部活動で県外へ遠征する際の費用負担について、どのように対応しているのか知りたい」との質問もあり、これに対して学校側からは、特別支援学校校長会からの補助のほか、募金活動や物販によって必要な費用を確保している状況が説明された。
○ 生徒の指導に関して、繊細な生徒が多いという現状を踏まえ、仲間外れや危険な場面が起きていないかを懸念するとの意見があり、生徒同士のやり取りに教職員が丁寧に目を配る必要性を確認した。
○ 昨年度に不足していた教職員数について質問があり、今年度は充足していることが確認され、教育活動の安定につながっている点が評価された。
○ 広報の面では、中学生への説明に Instagram が活用しやすいとの意見があり、学校側から SNS の活用が進んでいる状況が説明された。

（２）自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について
○ 企業や地域、保護者の理解がさらに深まるよう、今後も積極的な情報発信や丁寧な説明を一層進めていくとともに、学校関係者など連携先との情報共有も強化し、地域ぐるみで教育活動を支えていく体制を整えていく。
○ 生徒同士の関係や人間関係づくりについて、教職員が一丸となり、生徒の安全や安心感を高める支援をより厚く行うとともに、日常的な見守りを通していじめを早期に察知し、さらに指導の過程では不適切な関わりが生じないよう、適切な指導の在り方を常に意識して取り組んで行く。
○ 保護者参加の課題として、育成会の出席率低下が懸念される。今後は内容や形式の工夫を進めるとともに、引き続き情報交換の場を設けるなど、負担が少なく参加しやすい体制づくりを検討する。
○ 生徒の評価を第一に考えて取り組むこと、また保護者の要望についても実現に向けて努力してほしいとの意見があった。
○ 進路関係では、県外の社員寮等の確認について質問があり、学校側からは、保護者や関係者が確認している状況であることが説明された。また、就労選択支援制度が始まり、就労継続支援Ａ型事業所を希望する生徒への支援についても、関係機関と連携を図っていく必要性を確認した。

（３）学校の重点目標や自己評価の評価項目について
○ 自己評価の評価項目自体についての直接的な意見はなかったが、学校評価の結果については、教職員内での共有を進めて欲しいとの要望があった。
○ 管理職の打ち合わせを勤務時間内に週２回としたことは働き方改革として評価することができ、分掌部等の反省を年３回から２回へ見直した点も良い判断であったとの意見が示された。今後も状況に応じた柔軟な学校運営が求められる。

（４）学校運営の改善に向けた実際の取組について
○ 生徒や保護者、地域の方々が学校を誇りに思い、生徒が前向きで充実した学校生活を送れるよう、学校の良さや魅力ある取組、学習の成果を積極的に発信していきたいと考える。
○ SNS による発信やバックパネルの活用は生徒にとって自分たちの努力や成果が認められる喜びにつながっており、学校全体にも良い影響を与えていることから、今後も効果的に活用しながら情報発信を進めていくことを確認した。